

全国及び県学力・学習状況調査の円滑な実施に向けて

Q 何のために調査をするの？

児童生徒の学力や学習状況を把握し、学校全体で共通理解して取り組むべきことを明確にし、授業改善を通じて児童生徒の学力向上を図るなど、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てるために行います。

岡山県マスコット
「ももっち」



Q 調査当日までの取組ではどんなことに留意したらいいの？

児童生徒が前年度からの取組の成果を調査当日に発揮するためには、調査当日までにつまずき解消に向けた取組を学力向上担当者が中心となって計画し、確実に実施することが重要です。

岡山県マスコット
「うらっち」



12日

13日

14日

15日

16日

17日

18日

調査実施日

具体例

前年度とつながりのある指導を行いましょ。

児童生徒だけでなく、先生方も新しい環境の下でのスタートになります。前年度に成果のあった指導法やつまずき解消のための取組を継続して行うことで、つながりのある指導の充実を図りましょ。

また、春休みの課題の点検に当たっては、押印だけで済ませるのではなく、児童生徒の状況を把握できる点検を心掛けましょ。その際、児童生徒が頑張ったことを認め、褒めることなどで、やる気を喚起する声かけなどもお願いしましょ。

異動して来られた先生や新採用の先生は、前年までの取組が分からず戸惑っているかもしれません。互いの声掛けで学校全体で共通した取組にしましょ。

短時間でも継続的に取り組みましょ。

少しずつでも毎日継続して学習に取り組むことは大切です。例えば、朝学習の課題の難易度や量を調整し、「できた」「わかった」を実感させることで、児童生徒の意欲を引き出すことが考えられます。また、学校での取組に加えて、家庭での学習が充実するように、学習の進度に応じた課題だけでなく、前年度の復習問題に取り組ませることも有効です。

全教職員で「できた」「わかった」を引き出しましょ。

学力向上担当者が中心となって、「答えは書けるけど、説明できない」等もう一歩で理解できる課題に取り組ませるなど調査当日までの重点を見える化し、前年度からのつまずきを1つでも多く解消し、「できた」「わかった」を増やせるよう学校全体で取り組みましょ。

また、取組を進めるに当たっては、プリントの印刷等を分担するなど、役割分担も大切です。

プラス1 実施前に、複数で、調査マニュアル(全国調査)や実施の手引き(県調査)を熟読し、調査を円滑に実施できるよう準備しましょ。